

丸亀市総合運動公園

スケートボードパーク等施設の整備に関する基本方針

1. 整備の背景

(1) ストリート系スポーツ気運の高まり

近年、若者のスポーツ離れが危惧される中、スポーツ庁においては、従来のスポーツや体育の枠組みに縛られず、遊びの要素を取り入れた「アーバンスポーツ」（都市型スポーツ）が推進されています。そして、先に開催された東京 2020 オリンピックでは、そのアーバンスポーツとして、スケートボード、3×3（スリ-エックススリ-）バスケットボールなどが正式競技として採用され、これら、ストリートカルチャーを付加したスポーツの機運が急速に高まっています。

(2) 施設整備の必要性

ストリート系スポーツ施設については、従来から整備を求める市民の意見も多く、「丸亀市総合運動公園施設再配置計画」では、下記のとおり位置付けています。

（「丸亀市総合運動公園施設再配置計画」抜粋）

今後の進め方：新たな設備・機能の整備

（前段省略）スケートボードや3×3バスケットボール等、ストリート系スポーツの施設についても公園内の空きスペースを利用して整備します。

① スケートボードパーク

スケートボードパークについては、東京 2020 オリンピックで日本人選手が活躍した影響からスケーターが増加しており、全国的にも自治体等による整備の計画が増えています。

県内においては、公共のスケートボード施設はわずかに3箇所（さぬき市長尾総合運動公園、高松市朝日グリーンパーク、観音寺市一の宮公園）のみで、いずれの施設も老朽化の著しい状況となっています。

このような中、丸亀市に対し令和3年12月に「香川スケートボード協会」から、スケートボードパークの早期整備を求める要望書の提出がありました。

このほか市内では、公共の道路や歩道、公園・駐車場、商店街など、若者を中心に、街なか・郊外を問わず各所でスケートボードを楽しむ様子が増えてきており、公共スペースの適正管理や安全確保、周辺住民への迷惑防止の観点からも、適切な場所にその受け皿として集約したスペースを設ける必要があります。

(参考) 【スケートボード人口】

全国スケートボード人口は10代前半から30代を中心に約400万人といわれ、競技人口としては約2,000人。(スポーツ庁：アーバンスポーツツーリズム研究会)

【全国の施設設置状況】

公共：243施設、民間：175施設、総数：418施設

(2021年5月現在：日本スケートパーク協会)

【UZUPARK(鳴門市)利用人数】

年間 約25,000人

② 3×3バスケットボール用コート

3×3バスケットボールは東京オリンピックで新種目として採用され、4年後のパリオリンピックでも正式種目として採用されることと決まっています。

そのスピーディな試合展開やトリッキーなプレイが魅力で、認知度も年々高まり、競技人口は世界で43万人を超え、メジャースポーツとしてワールドカップなどの大会も数多く開かれています。

日本は世界9位のランクに位置し、国内でも日本バスケットボール協会公認のプロリーグがスタートするなど盛り上がりを見せています。

3×3バスケットボールの魅力は、プレイレベルの高低を問わず、遊びの延長として少人数から気楽に楽しむことができるところにあり、若者を中心とした受け皿として、コート整備の需要は高いと思われます。スケートボードパークに併設することで、さらに相乗効果が見込まれ、総合運動公園の活性化と双方の競技人口の増加につながることを期待されます。

2. 整備コンセプト

丸亀市総合運動公園に若者文化のランドマーク的空間を創出し、幅広い世代に親しまれ、魅力溢れる都市公園とするため、整備における基本方針を次の通りとします。

【方針1】 誰もがいつでも気軽に利用できるパーク

未経験者や初級者から上級者まで、誰もがいつでも気軽に利用でき、自由に楽しむことのできるパークを目指します。

【方針2】 周辺環境に溶け込み安心して楽しめるパーク

公園内の空きスペースとその形状、周辺の池や川、植栽など、周辺環境に溶け込み、安心して利用できるパークを目指します。

【方針3】 地域の拠点として官民連携で賑わうパーク

丸亀市総合運動公園の拠点性を活かし、官民連携による大会やイベント、教室等の誘致・開催ができる場所として整備し、広域的な地域の活性化につながるパークを目指します。

3. 整備概要

(1) 施設の規模及び場所

スケートボード施設の規模は、全国的にも数百㎡から数千㎡まで様々ですが、初級者から上級者までのニーズを満たすためには、一般的に1,000㎡から2,000㎡程度の面積が必要とされています。これら整備に必要なスペースの確保、また音の発生による近隣住民への影響を考慮し、丸亀市総合運動公園市民体育館北側の調整池区域（約2,000㎡）をスケートボード施設の整備候補地とします。

また、これに併設するかたちで、利用者が気軽に立ち寄れるよう、調整池南の駐車場に隣接した場所に3×3バスケットボール用コートを整備します。

(P4.「配置図」参照)

(2) 整備内容

- ・ スケートボード（約2,000㎡）
- ・ 3×3バスケットボール（2面）
- ・ その他照明設備等

※総合運動公園施設再配置計画に基づき、隣接する駐車場（約180台）を合わせて整備する。

※周辺の状態を考慮のうえ、トイレ等の便益施設の整備についても検討する。

(3) 概算事業費

スケートボードエリア	100,000 千円
3×3バスケットボールエリア	30,000 千円
照明設備等（スケート・バスケ）	24,000 千円
測量、設計	9,000 千円
合 計	163,000 千円

※ 駐車場、便益施設の事業費については別途

4. 整備スケジュール

令和4年度 現地測量、基本計画、実施設計

令和5年度 整備工事

□ 「配置図」

